

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「詩のくふうを楽しもう」 教材名「詩のくふうを楽しもう」

2 単元の目標

文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付ける。書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。詩を読んで理解した内容に基づき、表現のよさについて感想や考えをもてる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「書くこと」において、書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめている。（B(1)オ） ②「読むこと」において、詩を読んで理解した内容に基づき、表現のよさについて感想や考えをもっている。（C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

詩を読んで気付いた言葉の響きや並べ方を、自分の表現を考える手掛かりにする。詩の本文を写して自作としない。学習指導要領のB(1)オ・C(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。おおむね満足できる状況は、書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめているという姿

で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を音読して言葉の工夫を探す。	思②（読んだ詩への感想）
	2	○自分が見聞きした様子を言葉にする。	知①（音読と表現の確認）
	3	○語や行の並べ方を変えて書く。	知①（音読と表現の確認）
	4 （本 時）	○読み合ってよいところと理由を伝える。	思①（自作の詩と交流記録）



6 本時の指導 (4/4)

(1) 本時の目標

書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」 【めあて】詩を読んで気付いた言葉の響きや並べ方を、自分の表現を考える手掛かりにする。 〈予想される児童の反応〉 ・ 繰り返すと音が残る。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめで比べられるようにする。
展開 (分)	○「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」 自分で書いた詩を読み合い、聞き手が思い浮かべた様子と、そう感じた言葉を伝える。書き手は表したかった様子と感想を比べ、繰り返しや語の順、行の分け方を残すか直すか選ぶ。直す前後を音読し、変えた理由を記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 繰り返すと音が残る。 ・ 行を分けるとそこで間を置きたくなる。 ・ 友達は別の言葉に注目した。	独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。 想定するつまずき：作品の語を入れ替えただけで自分の詩とする、気付いた工夫と自作の関係を説明しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめている。(自作の詩と感想の交流記録) ◎知① 文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク)(使った言葉・音読や表記の確認)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達は別の言葉に注目した。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重